

育児サポートぽっかぽっか

いつもキティちゃんのエプロンを着て活動しています。私たちを見かけたら声をかけてください。



子育て中のお母さんの支援しています！

『育児サポートぽっかぽっか』は、平成14年1月、「子育て中のお母さんのお手伝いを少しでもできないだろうか」と発足しました。現在会員は20人。毎月第2火曜日に定例会を開き活動をしています。

活動は、母子健康センターでの乳幼児健診時の見守りや、子育て支援事業「母と子のサロン」、「わくわくランド」での見守り、講演会などで依頼があった時の託児サービスをしています。また、「多久市ボランティア連絡協議会」に入っているため、多久まつりなどへのボランティア活動も行っています。

会長の小松つや子さんは、「キティちゃんの絵のついたエプロンを着て、いつも活動をしています。会員は30代から60代と年齢層が広く、仕事をしながら活動している方や子育てしながら活動している方とさまざまです。お母さんたちから病後時保育の要望があるので、これからは活動人員を増やして取り組みたいです。常時働ける体制が必要なので、年齢・男女問いません。自分の空いている時間に活動できる会員を募集しています」と話しスタッフ全員で意欲的に活動しています。

問 多久市社会福祉協議会 ☎75-3593

●連載21● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

書聖・中林梧竹没後100年記念

「多久に残る梧竹の書」②三字書「勝在忍」

中林梧竹筆「勝在忍」(たうはしのぶにあり)は、梧竹の作品の中でも優品として知られています。この書は、多久出身で日本初の電気工学者となり、36歳という若さでこの世を去った志田林三郎が晩年に愛蔵していたものです。

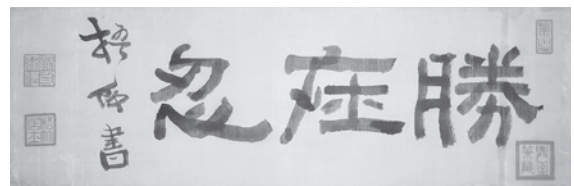
林三郎は電気学会を立ち上げ、逓信省工務局長を務めるなど当時の電気工学をけん引する存在でした。しかし突然逓信省を非職となり、さらに体調も崩しつらい時期を過ごします。

そんな時、彼に力を与えたのがこの書でした。林三郎はこの書を書齋に掲げ、毎日ながめて自らを奮い立たせていたといひます。

「勝在忍」という言葉のイメージに反し、この書は力みのない筆使いで、包み込むような優しさを感じさせます。この書がどのようにして林三郎の手に渡ったのかは分かりませんが、この書がもつしなやかな強さと優しさが、林三郎を支えていたのでしょう。

作品によっていろいろな表情を見せる梧竹の書を、ぜひご覧ください。

▼中林梧竹筆 三字書「勝在忍」



多久市郷土資料館特別企画展

書聖・中林梧竹没後100年記念特別企画展「多久に残る梧竹の書」

会場 / 多久市郷土資料館 2号・3号展示室

会期 / 12月15日(土)～1月20日(日)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

年末年始休館 12月25日(火)～1月5日(土)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

曾孫のピアノ独奏に驚嘆し
グランプリ賞に我が家は騒然
燃えさかる紅葉に染まる福泉寺
光と遊び風のささやく
澄みわたる空の下なる福泉寺
天降りこよ師の君思う
病葉にふればはらり地に落つる
切なき別れ不意にこみあぐ
除幕式に輝きし碑よ年経りて
今を刻みぬ我と同じに
尾形 節子

俳句

《あざみ句会 互選》

参道を明るく飾る石落の花
アクセサリー鏡に選ぶ小春かな
山里の音を鎮めて山眠る
古窯跡踏み入る怪やいのこづち
境内の隙なき銀杏落葉かな
大石ひろ女

川柳

《多久市川柳会 互選》

空向けてカメラかまえる熱気球
風の糸切れてしまった定年後
期待せず諦めもせずまず投票
迎春へ壺の配置を少し変え
過ぎ去った苦楽重ねて今日の幸
西山 残月